

「区民会議委員等からの提案課題」分野別一覧

分野(規則第3条第1号から第7号に規定する分野)		課題数	課題名
防災又は地域交通環境の向上など安全で快適な暮らしを支える分野	5	1	通勤時間等の交通渋滞の解消
		8	防災避難訓練の実施
		9	コミュニティバスの運行
		10	交差点における右折、左折の増設
		11	災害、防災時における障害者への対応
福祉の推進、健康の増進など幸せな暮らしを支える分野	2	5	地域福祉の担い手である市民活動が生きる仕組みづくり
		6	高齢者の安全な生活対策
子育て、教育など人を育て心をはぐくむ分野	6	4	あさお区民憲章
		14	地域のつながり「あいさつ」が始まり
		17	女性たちのための子育てと両立できる再チャレンジ支援
		18	地域に生かす区民の力
		22	麻生区での食育の実施
		23	市民の交流(区民課題公募分)
緑の保全、ごみの抑制など自然環境又は生活環境を向上させる分野	2	2	迷惑行為の減少
		15	麻生の水に親しみ、水を楽しもう
産業の振興、都市拠点の形成などまちの活力を高める分野	1	16	地元農産物が結ぶ地域の交流
文化又は観光の振興などまちの魅力を発信する分野	2	7	文化活動支援
		19	麻生区ガイドボランティアの養成と認定と活用
地域住民組織活動、まちづくり活動など市民自治を推進する分野	5	3	協同活動できる場の提供
		12	地域住民同士の連携強化と地域教育力の向上
		13	区民活動への支援強化
		20	(財)川崎市生涯学習財団分室廃室後の活用
		21	学校適正規模適正配置検討対象校の統合後の廃校を市民活動拠点として活用

区 民 会 議 委 員 等 か ら の 提 案 課 題

	分野	課題名	内容	現状の区民の取組み	課題の解決策(案)
1		通勤時間等の交通渋滞の解消	通勤通学の時間帯の送迎によって交通渋滞が発生している(駅周辺) バス通勤や徒歩通勤の人たちからすると迷惑(時間遅れや交通事故等) 自分だけよければいいという発想があるのではないかと心配でもある	混雑の少ない駅から通勤通学 特に雨の日に渋滞が激しいのでそのときは駅まで歩いたり、途中のバス停で降り、歩いたり、通常より20～30分早く家を出る等によって対応している様子である	駅ロータリー等で、他の人が迷惑していることのチラシ等の配布 駅から少しはなれたところでの駐車スペースの確保(そこで送迎を行う) バスの増発の要請及びバス停に一般車の送迎スペースの設置を要望 駅周辺への一般車の進入の規制など
2		迷惑行為の減少	ごみのポイ捨て 路上・歩行喫煙 迷惑駐車など 上記のような行為は未だ減少する様子がなく、一般の人にとっては不快 注意することによる危険もあり、見てみぬふりをするのが現状課題		迷惑行為に気づいてもらうためのチラシ配布やポスターの掲示 注意しやすいように「イエローカード」のようなカード提示できるような仕組みづくり ボランティアや警察等からの協力を仰ぎ、駅等から重点的管理の実施 人と接すること、コミュニケーションすること等、相手を思いやることの大切さの教育セミナー等の実施
3		協同活動できる場の提供	地域住民同士が接する機会が少ないように感じられる。何かあったときや不審者の発見等にも住民同士のつながりが大切であるが、それが薄れているのが現状 その一因が「場」の少なさではないかと考えられる	自主的なサークル等を作って活動 積極的な人、活動的な人には向くが、それ以外の人には参加が難しいと思われる また、そのようなサークルのリーダーは威圧的である人が多いのも課題	耕作放棄地等を地域住民が共同で利用(耕作)できる仕組みづくり 地域座談会・イベントの開催 ex.子育て、父親、勉強などについての情報交換会 区全体の防災訓練～小学校等に集まり、訓練し、その後みんなで食事など～ キャリア教育では、ライフ教育(人生の楽しみ方など)についての研修セミナー、勉強会の開催 現在行われている活動グループのリーダーに、コミュニケーションのとり方、人の話の聴き方などを行い、より多くの人に参加できるグループになるように援助する

	分野	課題名	内容	現状の区民の取組み	課題の解決策(案)
4		あさお区民憲章(私たち麻生区民の約束)	「あるべき区の姿・区民像・区民生活像」といった内容のものを箇条書きに看板化し、区民共通の意識化による、区民個々の努力目標及び区民の統一的・共通的指標として課題解決に迫る	麻生区イメージソングはあるが、具体的な取組は未だ手を付けられていないのでは	「区民憲章」という言葉がかたいので、「区民の約束」とか「区民のめあて」とか、区民に親しみやすいネーミングにしたい 内容のイメージとしては、たとえば 1 人に親切、住みよい街に(を作りましょう) 2 環境に心配り、きれいな街に 3 きまりを守り、明るい街に 4 音楽・芸術、あふれる街に・・・ といった区民生活の指標になるようなものを掲げる 区民に主体的意識化と実践化を図るには、この内容設定への区民の参加は不可欠 設定の方法としては、 憲章設定の趣旨説明を広報し、条件を与えて区民に項目を作文してもらう
5		地域福祉の担い手である市民の活動が生きる仕組みづくりがないこと	高齢者支援、子育て支援、障害者支援等の各分野で市民活動団体、グループは精力的に活動を展開しているが、分野間の連携・協働がほとんどないため、努力に相当する実効性が上がっていない さらに組織化されていない若い世代が地域福祉の担い手としては考えられていないことも課題		課題解決する方策として”しくみづくり”が平成18年度協働推進事業の福祉計画として位置づけられた。 この計画のヒントになったのは「都市計画マスタープラン麻生区構想区民提案」中、住宅市街地のまちづくり方針で提案されたコミュニティ形成を支援できる地域づくり、特に生活圏を単位とした良好なコミュニティ形成など(P126～130)だということ。 「麻生福祉計画推進会議」の委員のみなさんや市議会議員の方々もそれぞれの立場でモデル地区候補を調査中とのこと モデル地区での事業を成功させ、そこで得られたノウハウを各地域に広げ

	分野	課題名	内容	現状の区民の取組み	課題の解決策(案)
6		高齢者の安心な生活対策	1 高齢者振り込め詐欺の相談窓口 2 預金、保険相談窓口 3 相続相談窓口 4 その他生活相談窓口	一部は民生委員、ヘルパーが担っているが、専門的な見地での支援はできないと思う	個人のプライバシーに関わる問題であるが、身近に相談する人がいない高齢者の場合には重要な問題である 客観的な見地から意見・提言ができる専門家集団、コンサルティンググループを公の形をとって(実働は民)設定する ex.「シルバー110番」と呼称する
7		文化活動支援	1 麻生区には文化活動をする団体が多く、その演奏会、発表会をする場所が少ないため、場所取りが大仕事で、困難である ex.麻生市民館大ホール、大会議室 2 同上の練習会場の場所取りも大仕事	麻生小学校体育館は市民開放が行われ、運営委員会によって定例的な使用を決めている。他の学校ももっと開放してほしい 音楽教室、空き教室の開放 スポット的な利用も考慮する	1 少子化で発生している空き教室を積極的に開放する(有料) 2 未開放体育館の開放(あれば) 3 利用可能情報の提供 4 スポット的な利用方法の考案
8		防災避難訓練の実施	避難場所、準備品等の情報は提供されているが、避難訓練を実施して体験を重ねることが重要である		区全域一斉でなくてよい。春秋の参加しやすい時期に、たとえば06年秋柿生地域、百合ヶ丘地域、07年春王禅寺東地域、新百合ヶ丘地域とかで実施する
9		コミュニティバスの運行	坂道が多く、高齢化してきているので交通不便地域へのバスの導入	まちづくり市民の会から独立したコミュニティバス協議会があるが、なかなか進んでいない状況を何とかしたい	大型バスでの試行が何回かなされているが、道が狭いため警察の許可が取れないが小型バスを導入し、100円の料金で運行してはどうか 大型バスに2、3人しか乗らないということは費用もかかるが小型バスなら少し削減できる ドライバーはバス会社等退職した人に給料を安くやってもらえるとよいと思う
10		交差点における右折、左折の増設	道路の渋滞解消の一つの手段として、右、左折路線をつくることによってかなりスムーズに車が流れる		

	分野	課題名	内容	現状の区民の取組み	課題の解決策(案)
11		災害、防災時における障害者(児)への対応	災害、防災時は障害者(児)も健常者と同じだという方針で簡単なマニュアルはできているが、本当にそれだけで安心できるのか 障害者が何を求めているのか当事者の声をききたい		当事者団体との懇談会を開き、多くの意見を吸い上げ、具体的にマニュアルの参考とする
12		地域住民同士の連携強化と地域教育力の向上	異世代間の交流が減少 子育て世代や転入者の孤立化 安全に遊べる場所の減少に伴い子どもの居場所も減少、触れ合う機会もなくなってきている		
13		区民活動への支援強化	活動場所として利用できる施設が少なく、利用時間等制限が厳しい		支援ルームの利用拡大 こども文化センター、老人いこいの家など既存施設の部分的な開放など

	分野	課題名	内容	現状の区民の取組み	課題の解決策(案)
14		地域のつながり、 「あいさつ」が始まり	「まちづくり」の原動力は、地域の連帯、ご近所の底力にあると思う。先ずはご近所同士、地域の住民が「挨拶」を交わし顔馴染みになることがスタートではないか。防犯(「区づくり白書」p90-91参照)も防災(p88-89)も美化活動(p62-63)も、地域の繋がりがあってこそ実効性が発揮される。マナーやモラルの問題は決して麻生区だけのテーマではないが、教育が悪いなどと他人に責任を押し付けたり、他人任せにしては決して解決しない。先ず身近な所から、麻生区からじっくりと手を付けていきたいもの。出来るならば「挨拶」運動と並	「区づくり白書」p62,63参照	「あいさつ」はきっかけが必要。区内のあらゆる層、即ち町内、職場、学校、家庭、諸団体組織などで、それぞれに適した方法・工夫で実施することとして、きっかけづくり、牽引役を区民会議・区役所が担う。あらゆる組織による「広報力」も期待される。身近な事例の紹介、表彰制度などにも効果的。
15		麻生の水に親しみ、水を楽しもう	麻生川を始め区内河川、池など水辺の美化・水質改良で、区民が四季に水に親しみ、楽しめる自然環境づくりを。「区づくり白書」p76~79参照	麻生川では、桜まつりの時期に団体による美化活動があるが、通年の継続的取組みについては不詳	先ず、通年の継続的美化活動。水辺利用者などの美化意識の徹底。継続的美化活動は周辺町会など区民が主体でその参加が不可欠。 二ヶ領用水をモデルとしたいが、流域の一部だけでも水辺に降りて水に親しみ楽しめる場所が出来ないか。(行政によるハード整備) 子ども達等が直接水に入り水に親しめる場づくりには、水質改善事業、維持保全活動など行政・流域住民双方にて役割分担し協働が必要。

	分野	課題名	内容	現状の区民の取組み	課題の解決策(案)
16		地元農産物が結ぶ地域の交流	麻生の特長である都市農業存在の意義を、「地元市場」拡大などを通じて楽しく生活感ある中で理解し、地元農業の活性化、安全野菜の地産地消、地域住民各層の交流に繋げる。 「区づくり白書」p80～83参照	親子体験農業、JA等による特設市場開設、市民農園などある。	・ 農業者と有志区民との対話を通じて、各所での現状取り組みの目的・趣旨を出来るだけ共通化し共有して、広く区民への理解と参加を求める。 ・ 地元農産物各市場のネットワーク化(全区一斉朝市の定期的開催など)
17		女性たちのための子育てと両立できる再チャレンジ支援	郊外都市の当区は、職住近接にはなっておらず、区内で新たに職を見つけるのは難しい 女性たちは、家族の転勤などによって当区に転入する率が高く、それまでの職を手離している割合も高い 女性たちは、子育てと両立できる形での、短時間勤務で自宅から近い場での再就職を望む傾向にある 国が取り組む「女性たちの再チャレンジ支援」の視点から、次のステップを探す女性たちの再就職支援で、コミュニティの活性化につながらないか	・ 個人的行動として「ママともだち」などのネットワークをうまく活用して、求人誌に載らないささやかな仕事をクチコミで分配している ・ 活動団体のとりくみ 団体内で特技を「仕事」として教えあう	・ 転入者にも加入可能な開かれたネットワークづくり ママともネットワークは後からの加入が困難であったり、ネットワークを見つけるまでに時間もかかる。平均年齢の高い住宅地に若い家族が転入し、友だちづくりのきっかけがつかめないケースもある。 ・ 施策としての区内企業への働きかけで、魅力ある短時間勤務可能な労働の創出 人材確保のための費用削減や人材の質をより豊かに選べる可能性など企業のメリットと地域貢献 ・ 中心駅近くにオープンなジョブカフェ 上記2つをつなぐ形のジョブカフェを志ある市民が運営 子どもの年齢に関わ
18		地域に生かす区民の力	個人の得意分野を地域活動に 退職者の地域活動への参加 ・ 地域の文化活動 ・ 子育て支援 ・ 外国人共生社会 ・ 学校教育	こども110番の実施やパトロール隊の結成による地域での子どもの安全確保への取組み	子どもの通学時における安全対策として、シニアボランティアを活用するなど、学校、PTA、町内会、老人クラブなど地域全体での取組みを進める

	分野	課題名	内容	現状の区民の取組み	課題の解決策(案)
19		麻生区ガイドボランティアの養成と認定と活用	麻生区に新住民が増えており、麻生区の文化・芸術・地域性や自然や観光等について理解を深め、愛着を深めてもらい麻生に住んでよかったと思える地域にしていく。そのために麻生区について説明、案内等のできる人材の育成を図る		養成講座を企画し、市民のボランティアをグループ化する
20		(財)川崎市生涯学習財団新百合ヶ丘分室の廃室後の活用	現在、区民が自由に集い、話し合いやちょっとした会議を開いたりする場所が少ない。 ・区民が自由に誰でもいつでも使えるロビーが必要		市民(区民)の自主的な管理運営を基本とする ロビーでの活動を通して区民の交流とコミュニケーションを図る場になり、麻生区の地域力を高めることになる
21		麻生区の川崎市学校適正規模適正配置の検討対象校の統合後の廃校を市民活動の拠点として活用する	麻生区民の福祉・教育・文化・環境等多様な自主的な活動を展開する拠点が少ない 麻生区民の生涯学習を展開する場が現状では少ない 区民の活動の相互交流や新たな実践活動を生み出す拠点になる	・川崎市学校適正規模適正配置の検討対象校の地域だけの問題で区民に理解されてないのではないかと ・統合に向けての検討だけで精一杯でその後の活用について麻生区の声として発信することが必要	市民(区民)の自主的な管理運営を行うことを基本にする 指定管理者制度も活用する 区民から取り組みアイデア等を募る 区民の生活の幅と質を高める視点から教えていく必要がある 区内の団体、グループ等の事務局(室)としても活用していきたい
22		麻生区での食育の実施	緑と農地が比較的残っている麻生区の中で次世代を担う子どもたちに生きた教育を行ったらどうか 自校献立の研究	地域振興課では一部で地権者の理解を得て米づくり等を実施している	農業者、JA等の連携の中で食育教育に取り組んだらどうか

	分野	課題名	内容	現状の区民の取組み	課題の解決策(案)
23		市民の交流 (区民課題応募分)	麻生区にはここに生まれ育った人たちが少ない、互いに顔見知りではない隣に住む人でさえ日ごろ付き合いがなく、どんな人が住んでいるのかよくわからない 地域で生きるようになっても取っ掛かりがなく友達ができない 奥さんたちは気の合う人とだけ付き合い、近所の人にはむしろ敬遠しがちである 自治会や学校が住民の交流を進めるべきだろうがリーダーや賛同者が少ない 一方、各方面の体験を積んでいて能力のある人は多いが隠れてしまっている これらの人たちに呼びかけて交流に参加できるようにする「仕掛け」が必要である 交流を図ることの効		市民と行政の「協働」活動によって地域住民の交流を活性化し、市民の共助と社会貢献、さらに地域の向上を目指すまちづくりに役立てる。それが能力のある人材の活躍を促して本人の生きがいにもつながる「場」の形成が不可欠である その「場」とは市民利用施設もあるが各地域の小規模な「たまり場」でよい なかなか地域に溶け込めない人でも買い物帰りにぶらっと立ち寄ってお茶を飲んだり、雑談したり、パソコンをいじったりそんな光景が日常化すればよい 地域の小規模商店街が「シャッター街」になってしまっている。その空き店舗をあるいはスー